

引き続きたまねぎのべと病に注意！

1 発生状況

- (1) 4月上旬の発生予察調査において、一部ほ場で発生が見られ、被害株率22.0%と直近10年の平年値3.4%に比べ多かった。
本年は2月上旬に複数のほ場で越年り病株(図1)の発生があり、防除情報を令和2年2月13日に発表しているが、引き続き注意が必要である。
- (2) 向こう1ヶ月の降水量はほぼ平年並みと予想されているが、気温が発病適温となるため、今後、まん延の恐れがある。



図1 越年り病株



図2 2次感染株

2 生態と発生条件

- (1) 作物残さなどから、11~12月に苗床や定植後のほ場で感染する。
- (2) 感染した株は越年し、2~3月に病徴を示し、葉は萎縮、黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる(図1)。越年り病株は1,000株に数株の発生でも2次感染株の多発につながる。
- (3) 越年り病株が感染源となり、3~5月に温暖で降水量が多いと2次感染株(通常のべと病株)の発生が増え、急速にまん延する(図2)。
- (4) 気温6~19℃で胞子を形成する。最適気温は13~15℃。
- (5) 気温15℃前後、湿度90%以上で胞子が発芽する。
- (6) 胞子は通常100m、強風時はさらに広範囲に飛散する。

3 防除

- (1) 予防的に予防剤を散布し、発生を認めたら発病株を抜き取った後、治療剤を散布する(表)。
- (2) 抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。

表 たまねぎ べと病の防除薬剤(例) 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬剤名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤・ ペンコゼブ水和剤	ジチカ-バ-メ-ト(M3)	予防	400~ 600倍	収穫3日前まで	5回以内
ベトファイター顆粒水和剤	その他(27) CAA(40)	治療 治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	ジチカ-バ-メ-ト(M3) フェニルアミド(4)	予防 治療	500~ 1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSI(45)	治療 治療	1,500~ 2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライフロアブル	その他(27) QoI(11)	治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5) CAA(40)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
メジャーフロアブル	QoI(11)	治療	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZなどに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。